

CASE PRESENTATION

Dentist

Technician

Hygienist

「ジーシー ファイバーポスト」と 「ユニフィルコアEM」を用いた 審美補綴



東京都開業 中野デンタルクリニック
歯科医師
松尾幸一

はじめに

支台築造を含む歯冠修復治療はこの10年間でめざましい発展を遂げた。その要因として、象牙質に対する接着、築造用のコンポジットレジン、そしてファイバーポストの登場があげられる。

日本人の薄い歯肉に対して、歯冠部だけでなく、歯冠内部とくに根管内部からできるだけ失活歯のディスカラーに対処していくことは、審美性を高めるということだけでなく、歯質の余分な切削を防ぐ意味でも重要である。

従来、根管治療後、コア形成を行い、コア

作製の印象を行う。あるいは、メタルコアを除去して再根管治療を行う。このような場合に、アンダーカットや薄い歯質は印象の変形の原因となるため、アンダーカットをなくす根管形成や薄い歯質はできるだけ削除して適合の良い鑄造体を装着することが従来の鑄造支台築造であった。その際、アンダーカットを完全に取り除くと根管側壁が薄くなり、術後数年での歯根破折を招くこととなる。このような事態を防ぐためには、歯肉縁上歯質が薄い、あるいは少ない場合、コンポジットレジンで補強しその後クラ

ウンの形成を行うことで、歯質の削除を防ぐことができる。また、根管処置後早期に支台築造を行うことで、テンポラリークラウンの脱離防止や根管内へのコンタミネーションを防ぐことにもなる。

筆者の臨床の中で、支台築造の際、ファイバーポストレジジンコアあるいはレジジン築造のみの修復は95パーセントを超えている。临床上、直視できない部位、あるいは明らかにレジンの接着が無理であるような状況を除いて、日常臨床においては無くてはならないものである。

症例1 前歯の症例



1-1 初診時。外科矯正終了後の状態。補綴治療を目的として来院。



1-2 オククルージョン、トゥースポジション、ガムラインに問題がないと判断し、矯正装置を除去。



1-3 歯肉の炎症抑制後、プロビジョナルレストレーションを装着。



1-4 アンテリアカップリングの確認。同時に唇側の歯肉が薄いのでメタルフリーの修復を行うべきであることが予想できる。



1-5 中切歯切縁と下唇との関係を確認しながらオクルーザルプレーンを設定する。



1-6 メタルコアを除去し、根管治療が終了した状態。歯肉縁上の残存歯質は少ない。



1-7 後に行うボンディング材が歯肉溝に残存することを防ぐため、歯肉溝に4-0のコードを挿入する。



1-8 根管口形成時。直接法であるため、無理にアンダーカットを取る必要はない。



1-9 ファイバーポストの試適。直接ポストが歯質と接触しないような太さを選択する。



1-10 支台築造後の高さよりもファイバーポストが若干長めになるような長さに切断する。



1-11 根管内に試適したファイバーポストをアルコールで清掃し、ジーシー セラミックプライマーを用い表面処理(シランカップリング処理)を行う。



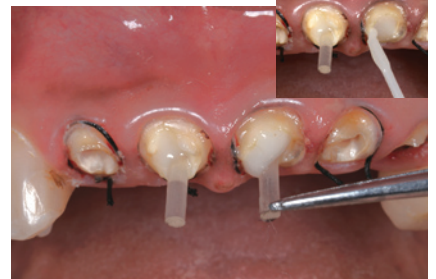
1-12 酸化アルミニウムの粉末で根管内を清掃する(フッ素が含まれていないものならよい)。なお、私はこの操作の後に根管内のスマー層をより確実に除去するために、EDTA(14.5%配合)により80秒間処理し、十分に水洗・乾燥を行っている。



1-13 ユニフィルコアEM セルフエッチングボンドを混和後根管内に丁寧に塗布し、30秒間放置後マイルドエアにて充分に乾燥する。



1-14 ユニフィルコアEMを根管内に填入。最深部にノズルの先を当てながら、ゆっくりと填入することで、気泡の混入は起こらない。



1-15 ファイバーポストを根管の最深部までゆっくりと挿入する。



1-16 まず、根管内レジンのみ先に光硬化させてファイバーポストを固定する。



1-17 続けて、コア部の築盛を行う。ファイバーポストの周囲にゆっくりとレジンを巻きつけるようにする。ユニフィルコアEMは垂れにくく盛り上げが容易である。



1-18 光硬化後、ダイヤモンドバーを用い形態修正を行う。



1-19 印象前の歯肉の状態。



1-20 印象前の歯肉圧排の状態。歯肉の厚みからコードの太さを選択する。なお、コア部にバランス良くファイバーポストがしっかり挿入されているのが分かる。



1-21 支台歯のシェードテイキング。クラウンより先に作製する 3| のラミネートベニアの支台歯の色調と、他のクラウンの支台歯(残存歯質)の色調をラボサイドに伝える。



1-22

1-23

1-24

プロビジョナルレストレーションの形態を修正し、患者の同意を得るとともに、最終マテリアルを決定する。



1-25

1-26

1-27

ファイナルレストレーション装着後。メタルコア、メタルセラミックスによる歯肉のディスカラーレーションが改善された。



1-28 術前。

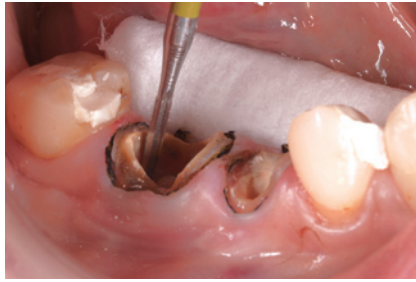


1-29 術後。

症例2 臼歯部における支台築造の症例



2-1 歯肉溝に4-0のコードを挿入する。後に行うボンディング材が歯肉溝に残存することを防ぐため。



2-2 ジーシー ファイバーポストドリル(φ1.4mm)を使用し、根管形成を行う。



2-3 ファイバーポストを試適し、ファイバーポストの太さ・長さをチェックする。



2-4 接着を確実にするために、酸化アルミニウムの粉末で根管を清掃し、十分に水洗・乾燥する。



2-5 ユニフィルコアEM セルフエッチングボンドを混和後根管内に丁寧に塗布し、30秒間放置後マイルドエアにて十分に乾燥する。



2-6 ユニフィルコアEMを根管内に填入。



2-7 ファイバーポストを挿入し、光照射を十分に(20秒以上)行い固定する。



2-8 ユニフィルコアEM レジンペーストを盛り上げ、光照射する。



2-9 ダイヤモンドバーを用い、支台歯形成を行う。



2-10 支台築造の完成。

おわりに

「ジーシー ユニフィルコアEM」は従来製品と比較しても操作性が良いと感じている。特に専用のディスペンサーを使用することで練和ペーストを容易に採取できることや直接根管へ填入できることは、術

者、介助者のストレスをなくし確実に支台築造を行うことができる。審美性に優れ、歯に優しいファイバーポスト・レジンコアシステムを今後も積極的に臨床応用していこうと考えている。